

第4回外洋加盟団体長会議 議事録

日 時 : 平成28年1月24日(日) 9:30~14:40

場 所 : 岸体育館101会議室

出席者 : (理事)

植松眞副会長、坂谷定生常務、平松隆、中澤信夫、大島茂樹、剝岩政次
(加盟団体)

津軽海峡副会長 石川彰、いわき会長 菊池邦仁、東関東会長 小屋忠史、
東京湾会長代行 足立利男、東京湾事務局長 望月規矩雄、

三崎会長 新田肇、三崎事務局長 中里英一、三浦会長 尾山純一、

三浦事務局長 関根照久、湘南会長 渡邊康夫、湘南事務局長 作田智恵子、
東海常務理事 河内道夫、近畿北陸会長 高橋利明、内海会長 妹尾達樹、

内海事務局長 猪上忠彦、西内海副会長 金井寿雄、

(委員会)

外洋計測委員会委員長 吉田豊、国際委員会外洋小委員会委員長 鈴木一行
ルール委員会外洋小委員長 大村雅一、

(事務局)

外洋常任委員会事務局 鈴木保夫

J S A F 事務局次長 寺澤寿一

(順不同、敬称略) 合計27名

1. 開会挨拶

植松副会長：前回の青森の会議では、時間が足りなかったので今回は時間をとった。
十分に議論して良いレースが出来るようにしていきたい。

議事録署名人

植松副会長命により、坂谷常務理事が議長となり、議事録署名人に大島茂樹理事、外洋三崎の新田会長を指名し議事に入った。

2. 議事

<協議事項>

1. H28, 29年度理事選挙について

坂谷：選挙及び水域推薦によるものがあるがスケジュールは資料の通りである。

選挙の場合は9名の枠があるが、立候補が9名を超えた場合は選挙になる。水域理事については外洋として5名の枠があり、5ブロックに分けられた外洋加盟団体がプロ

ック毎に1名を協議の上で推薦することになる。

猪上：西内海が関西ブロックに入ったことについて内海は聞いていないが今後のことを考えて、あえて異議は唱えない。

金井：西内海も聞いていなかった。

坂谷：分割改正案が出た当時、瀬戸内海に面している水域を考えると、近北、内海、西内海は一緒になるという考えで決めたのではないかと思う。

猪上：理事選候補の選出のルールを決めたらどうか？

坂谷：外洋枠に限定したことであればこの会議で決まる。

猪上：会員数で決めるのは危険と思う。

議長が現状の方法について出席者に諮ったところ、出席者全員が賛成した。

坂谷：各水域において候補者を決めてもらいたい。

植松：選挙理事候補は、坂谷、中澤、平松の3名であるので宜しくお願ひしたい。

出席者全員が了承した。

植松：他に意見があれば頂きたい。

尾山：水域推薦理事の内訳は。

坂谷：外洋系が5名、ディンギー系が8名の13名で、外洋系水域推薦理事は、餅氏、平井氏、大島氏、馬場氏、剥岩氏です。会長推薦理事は植松副会長を含め副会長4名と理事1名の計5名で、その内4名はディンギー系である。

2. ジャパンカップについて

坂谷：レース委員会から意見書が提出されたので、開催基準の改正案を常任委員会で協議した結果が示した案です。

期間は5日間だったものを、実質のレース期間として4日間とした。

レース数は7レースから8レースに、安全規定は「外洋特別規定」と表記した。

公示の開始は1月から2月に変更した。

中里：レース数を「最大8レース」としたらどうか。

坂谷：最大8レースとすると公示や現場で簡単に減らす場合がある、結果として8レース以下になることはあるが表現はこのままで良いと考える。

坂谷：今年のスケジュールは、8月6、7日はインスペクション、8、9日は完全休止。10日がインスペクション、11、12、13、14日がレースとなっている。

坂谷：ジャパンカップの運営指針は資料の通りである。

足立：資金についての負担は？

坂谷：基本的に受益者負担であるのでJSAFは負担しない。

中里：大凡の予算実績は？

坂谷：スポンサーが入らない場合で300万円～350万円位であった。

植松：参加艇が10～15艇のレースにJSAFが資金を負担するのは問題と考えて

いる。関東で開催する場合は関東4団体が前もって打合せをした方が良いと考える。

尾山：エントリーフィーの目安は？

坂谷：1艇10万円にクルーナンバー掛ける2万円で、1艇当たり30万円前後となる。

東海開催の2015では12艇で計340万円位であった。

坂谷：ジャパンカップは常任委員会が主体であるが、常任委員会の中にジャパンカップに特化したグループを作る案が出ている。異論が無ければそうしたい。

出席者からは異議が出ずに了承された。

3. 主催者保険

坂谷：12月5日の理事会に保険の案（配布した資料参照）が提出されたが、外洋には合わない。

資料「主催者保険における補償内容等の比較表」について説明する。

要因、期間、海域については比較表の通りとし、詳細については特約に明記したい。

保険料が高くて、保険の担保がしっかりしていなければしょうがない。

中里：事故の定義は？

坂谷：同じレース中でも海域が離れていれば別の事故と考えているが、保険会社に確認したい。

新田：予め保険会社に確認しておくことが重要である。

中里：対人補償を一人、現状と同じ3億円にしたら保険料はいくらになるか？

坂谷：大凡80万円になるようだ。

坂谷：ディンギーと外洋は別に考えたい。調査中の保険に4月から加入したいと考えている。保険料は年間60万円位と思われる。これを加盟団体に割り当てて負担してもらう事になる。

出席者全員が賛成。

新田：加入した場合、証書と約款を団体に知らせて欲しい。

坂谷：そうする。他に疑問点があれば連絡して欲しい。

作田：今までの保険の特約を見せて欲しい。それを見てから検討する。

4. 外洋系全日本レースについて

坂谷：レース委員会から資料の通り現在のレースに疑問の意見が出ている。

吉田：全日本選手権については「規則」として守らなければならないのは、JSAFの運用規則。そしてクラブ規則とRRS等との整合性になる。運用規則にはJSAFに加盟していない団体が、加盟団体と共催することにより全日本のレースを開催できると記載している。クラス規則のIRCの場合、ナショナルチャンピオンシップの開催は各国のIRCオーナー協会の「承認」が必要となっている。該当レースはその「承

認」を得て開催している。この手続きを見ても、日本IRCオーナー協会がそのクラス協会と認められる。また、RRSに関しては毎回、地域の団体と共催しているので問題はないと思う。

坂谷：大きさの定義ははっきり決まっていない。

吉田：IRCというクラスでは、様々なクラスを設けてレースをしている。クラス分けには、イギリスでQtonカップをイギリスで行っているが、これらも違うクラスの今では無くなったクラスだが、これも主催団体がその大きさを決めて開催している。

植松：「全日本が付くのに任意でやっているのは変である」という主張であるが大人の対応で良いのではないかと考える。

平松：特別加盟団体がやっているので、「全日本」の使用は問題ないと考える。

剝岩：ミニトンでも、主催団体によって若干異なるので長さもバラつきがある。

坂谷：出席者からは異議がないので、常任委員会で纏める。

<報告事項>

1. アメリカズカップの経過及び現状

植松：ソフトバンクが60億円を出して活動している。

昨年クルーの募集があり、応募が70人あった。そのうち20名がテストを受け、最終的に2名が選ばれ、早福氏を含めて3名が決定した。

ユース、23才以下のレースが開催できることになっている。

「資金を負担してもやりたい」と希望するオーナーがいるとのことであるが、開催は決定していない。

小屋：外洋東関東においては、東日本震災後まだ艇の数が少ない。

マリーナからレースをやりたい、との要望があったので、艇が少ないが対応したいと考えている。

2. 艇登録制度について

鈴木（保）：昨年11月17日に名古屋において、日頃意見を頂いている加盟団体の事務担当者へ出席頂きヒヤリングを行った。

今まで、艇登録WGで検討してきたが、実際に使う側とのずれがあったため、今後は当事者の意見を聞いてから、ワーキンググループで検討していく。

名古屋で行ったヒヤリングの議事録の通り、艇登録規則と現状の事務手続きが整合していないところがある、との指摘が外洋湘南と外洋東海よりでている。

登録証は毎年発行することは不要との意見もある。

また、艇登録証及び申込書の記載項目も検討が必要である。

この会議の後に開催される事務局長会議において、更新システムについての説明を行い、システムに改善点があれば、コストとの見合いになるがシステムの改修を検討す

る。

中里：艇登録証は毎年発行すべき。

作田：艇を変えても届を出さない人がいるので毎年発行すべき。

関根：オーナーの立場からすれば、艇登録証を使用することがあまりないので毎年発行する必要はない。

足立：使わなければ現状のままで良い。

出席者に諮ったところ、毎年発行することへの反対は2団体であったので、今後は毎年発行することに決定した。

3. 緊急対応フローチャートについて

坂谷：配付した資料を活用して頂きたい。

4. 国際委員会の現状

鈴木（一）：IRCコンGRESSへの参加及びISAF総会への参加等、国際委員会の事業報告及び事業計画は資料の通りである。

特に注意する点は、ISAFがワールドセイリング（WS）に変更されたことである。

5. ORCの取り扱いについて

吉田：当初ORCは複雑なシステムであるのでORCANと同じように進めていくのは難しいと考えていた。12月に関根氏、横山氏とORC全般について協議した。

また、ORCANの技術系のメンバーにはORC委員会への「協力」を個別にお願いして、面談の結果ほぼ全員のメンバーから協力を受けられることとなった。

新しいORC委員会はこれらのスタッフとJSAF系のメンバーが合体して組成する。

ORCの申請書はホームページに載せている。

申請はメールで申し込み、従前通り事前に料金を支払ってもらってから始める。

鈴木（一）：ORCについては4月～6月間の証書の精度に不安がある。

世界的に、IRCとORCが拮抗している。日本ではIRCが約300艇でORCが約60艇である。

新規計測については、滞ることがあるかも知れないがご理解を頂きたい。

吉田：ORCからチーフメジャーを呼んで計測委員養成の講習会を6月頃行う予定である。

また同時に関東と関西でセミナーを1回ずつ開催したい。

6. 外洋専門委員会からの報告

- ・キールボート強化委員会

中澤：マッチレースを3月に行った。

和歌山にチャーター用のJ24を10艇集めている。これは以前より計画していたボートパーク構想が実を結んだ形となっている。

- ・ 常任委員会

坂谷：事業計画は資料の通りである。

予算は、収入にジャパンカップの参加料を400万円、支出に同額の400万円を計上する。主催者保険として加盟団体の分担金を55万円、支出を60万円とする。艇登録システムの改修費の計上も含めて予算を変更する。

- ・ 計測委員会

吉田：計測事業にORCが増えた。ORC委員会を組成して、これを担当させたい。昨年、2014と2015年度のジャパンカップで計測したセールへの不適切な対応や記載が見受けられたので、セールメジャラーで構成するメジャラー部会に対してORC委員会から講師を招聘して2月に講習会を開催する予定。

- ・ 外洋技術委員会

吉田：技術委員会は主に小型船舶に対して技術的な対応をする委員会である。

- ・ IRC委員会

吉田：年間予算は1,100万円でメンバーは40人弱である。収支はバランスしている。

来年はERSの改定を予定している。この時に計測員は更新講習会を受講しなければならない。

この時に計測経験の少ない計測委員の対応を考えている。

- ・ ORC委員会

吉田：ORC-Iは現在KYCが導入している。これも更新を進めていきたい。

また、ルールに合わせた運用を心掛けたい。

ORC委員会が組あがればORC委員会の会議を定期的を開催する予定。

- ・ 広報委員会

植松：予算削減のため、J Sailingを廃止したいと考えているが廃止しても大丈夫か？

河内：インターネットをやっていない人は見ない。

猪上：J Sailingは必要である。

7. その他

新田：来年小笠原レースの開催を計画している。

2018年が、返還50周年となるので協力を得やすい。

来年は、プレとしての位置付けで開催したい。

カテゴリーについて検討して、各団体に説明したい。

坂谷：共同主催の予定か？

新田：できれば共同主催で行いたい。

河内：沖縄―東海レースの資料を配付した、是非参加して欲しい。

平松：相模湾の「網代崎灯浮標」の撤去について海上保安庁から説明会があり、参加してきた。設置したときの経緯も曖昧な点があり、予算の面から撤去するブイのリストに上がっているとのことである。

尾山：「受益者の合意を得ずにして撤去しないのが原則だが、プレジャーボートは入港の灯浮標があれば良いはず」と言われた。

平松：反対意見を下手に騒ぎ立てず、穏やかに持ち続けて表明して行くことが重要である。

剝岩：配付の資料「火山島レース」の案内の通り今年も開催する。

大村：合同会議を2月に大阪で行う。今年の参加者は66名の参加の予定。

大村：配付資料の通り、東京湾・伊勢湾・大阪湾など湾内における海上交通管制が強化され、非常災害時には海上保安庁が（ヨットも含む）船舶に移動命令、航空標識の設置の手伝い等を命令できることになる。

妹尾：日の丸セーラーのロゴは団体の行事で使用できるか？

大村：使用は可能だが制約があるので使用したい場合は予め事務局に届けて欲しい。

8. 次回の開催

植松：次回の開催は10月1日（土）、場所は熱海を予定したい。

外洋湘南の協力をお願いしたい。

作田：検討する。

植松：詳細は決定したら案内をする。

以上。

2016年2月3日

議事録署名人： 大島茂樹
新田 肇